

## 1. スタンフォード監獄実験

監獄実験について、意外に肯定的な意見が見受けられました。すなわち、この実験があったから、他の人たちが助かったのだ、という考えです。なるほど。しかし、その考えを肯定的にとらえてしまうと、今後、同様のことが起こった時に「これは今後の教訓としての意味があった」で済まされてしまいそうで、私は恐く思います。悲惨な体験をする人がいない社会は、一体、何回の教訓で、実現できるのでしょうか。

そもそも、監獄実験はおろか、原爆の悲惨な結果さえ、認識していない人が多いのですから、教訓として機能しているのか、疑問です。

スタンフォード監獄実験は関係ない人間からするととても興味深い実験であり、結果も面白いものであると思うが、当事者などの人権やその後の苦痛を考えるとこのような実験はもうできないと思った。しかし、日本が戦争で色々なものを失い、やらなくなったようにこの実験もやることにより、するべきではないということを人類は学べたのでこの実験をした人たちはそういう意味では人類の発展に大きく貢献したと思う。

前回の授業の最後に見たスタンフォード大学の実験について自分なりに考えてみたところ、実験を行い、悪い方向に行っても止めず、最後まで実行した方は倫理的には悪いことをしていると思うが、この実験のように「良い」「悪い」を囚われずにする人がいるから、その分野の人々だけでなく、一般の人や国が動き、もっといい社会が出来上がっているのではないかと思う。数人の犠牲で多くの人が助かったのかもしれない。

宿題として見てきた実験映像は少し怖かった。あんな実験をやっているのかと思うのと同時に、1日目、2日目からし状況や環境の影響であんなにも変わるものなのかと感じた。

心理学や行動経済学について、私はど素人ですので、何とも言えませんが、一つ確定的なことは、監獄実験についてのあらゆる仮説について、反証可能な形での検証は、してはならない、ということです。

反証可能でない形では、他の実験で検証することは可能でしょうし、おそらく、現代的な心理学・行動経済学では、そのような形で研究しているのだと思います。

オックスフォード大学（←スタンフォード大学ですね。森）の監獄実験の動画を見て、同調効果は悪い選択に対してより強く働くのではないかと感じた。悪い選択のほうが簡単で、一見正しいように見えるからこそ、監獄実験では看守役がどんどん過激になってしまったのだと思う。

スタンフォード監獄実験は、アンカリング効果と同調現象が働いて、悪い結果を引き起こしてしまいましたが、もし、看守と囚人が一人ずつだと、看守はそれほど残酷なことをしないという結果になりますか？

## 2. 身の回りの同調

同調については、気をつけなければならない点が多いです。アイエンガーも、日本は同調が強い国であると述べています。緑茶に砂糖を入れようとしたら、店の人に「砂糖は無い」と言われたそうです。ところが、コーヒーには、砂糖がついてきたそうです。

同調の話は心理学の講義の時に聞いたことがあった。日本は特に同調が多い国だと感じている。みんながこうやっているからという理由で選択している場合が多いと感じる。またベネディクト氏が『菊と刀』で欧米は「罪」の文化、日本は「恥」の文化といていた。これに関連付けて今回の講義はよく理解できた。 難しい選択といえば選挙が思い浮かんだ。政治的な話は誰もが難しいと思ってしまい、この人がこの人を支持しているから間違いないとか、みんながこの人に票を入れているからとかの理由で入れている人は多いと思う。

人間は同調を意識するということが本当に根強いと思う。棒の長さの9人サクラで1人が実験的的話も、おそらく自分がされたら、周りに合わせてしまう気がする。日本人は特に同調圧力を感じながら生きていると思う。

同調効果を聞いて、腐ったミカンの理論を思い浮かべた。周りが多数派で自分が少数派の時、どうしても弱気になってしまって意見を変えてしまうことは人間の特性だと思う。

**同調と民主主義の兼ね合いについて考えることは、とても重要なことです。が、その前に、アリエリーが同調実験について述べたこビデオ（講義のページに掲載）を見てください！正しい線の長さを言えるようになるためには、たった一人でも、他に正解を言う人がいると、言いやすくなるそうです。「同調しない同調」までいかななくても、異なる意見を取り入れようとすれば、正しい判断が下せそうです。**

**民主主義は、個人の責任で政治を選択することに基本があります。本当に私たちは、責任をもって選んでいるのか？！よく考える必要があります。**

今回は心理学的なサイドからのアプローチをかけながら前回触れた同調を補強していく授業だった。同調の補強といっても、同調というテーマの知識の補強であって、同調そのものの補強ではない。それだとまさに同調圧力である。とまあこんな冗談でもいってなければやりきれない気持ちにもなるのである。スタンフォード監獄実験の凄惨な結果は部外者の立場からは理解しがたいものだ。だがそれこそが同調の本質であり、空気という魔物である。ドラマで聞いたようなセリフだが、そのドラマではこうも言っている。同調の空気を打ち破るには、打ち破る空気を作るしかない。なるほど同調に対抗するには少数で異論を唱えるのではなく抵抗するものを集めて別の同調を発生させるということだ。これは矛盾しているようで実に的確に核心をついている。結局人間に同調を打破することなど不可能なのだ。なぜなら我々が、長い年月をかけて積み上げ、未だ発達途中ではあるものの形を成した法治国家という枠組の中で生きる存在だからである。方という厳格で明確な規定の中で、我々は縛られ生きている。決して社会主義的に統制された規定ではないが、完全な自由よりは前者寄りだろう。その中で生きることこそ初めの同調であり、その中で育つ中で自然と個性を社会性で上書きしてきた。だが忘れてならないのは、我々は本来その法さえも帰れる国に生まれたということだ。数を合わせ、同調によって既存の同調を塗り替える。前述のような逆説に聞こえるが、要するに求められるのはその意識なのだ。反対する力を持っているという意識、同調しなくてもいいという権利。これを自覚できた時が、同調打破の1歩目となるのではないだろうか。                    だんだん何書いてるんだかわからなくなってきました。参考としてあげたドラマは「リーガル・ハイ」というドラマです。まあこのドラマの受け売りって時点で同調に飲まれてる気もしますが…。

### 3. みなさんの選択

**みなさんは20年ぐらいの年月を過ごしてきました。その中に、どれだけの主体的な選択があったか、振り返ってみるいい機会だったと思います！**

**選択は力になります。そして、練習することで良い選択ができるようになる、とアイエンガーは言っています。選択について積極的に考えてみてください！**

自分は今まで多くの選択をしてきた。部活に入る時、近くにあった沢山の部活からではなく、家から2時間程かかる場所まで行って卓球をしていた。高校に上がる時もチリで地元の学校に通うか、日本の高校に行くか、また何県の高校にするか。など様々。今までは運命、偶然と考えることは多かったが全て、自分がしたい、行きたいと思って選択したものだ。この授業を聞いて思った。そして、それが「自分」が選択したものだ気づくと謎に嬉しいようなウキウキしたような気分になった。また、これからの選択に対するプレッシャーも大きくなっているため、どのようにこれらが選択に影響を与えるか見ていきたいと思った。

はじめのころは桜美林大学を選んでよかったのか少し不安でしたが、今はいろんな人と出会えた偶然に感謝しています。自分の選択で運命も変わるだろうし、偶然も変わってくるんだなと思いました。

運命や偶然と違って、選択は自分で方向を変えることができる。人生における選択に正解や間違いは存在しないと思うが、だからこそ無数に現れる一つ一つの選択がその人の人生に大きな影響を与えるのだろうと感じた。

私は今まで、私の人生はほとんど運命によって決まっていた、変えられないんだとあきらめた考えをしてしまうこともありました。今回の授業で、偉大な人たちは皆自分の選択によって、自分の人生を切り開いていて、自分の選択次第でこれからの人生を自分なりに変えていけるということを感じて、少しワクワクしました。でも、何でもかんでも好きなように選択できるわけではなくて、自分の努力次第で選択の幅を広げていくことができると思うので、将来の自分のためにも、もっと努力しようと思うこともできました。

アイエンガーについてのビデオに関しては、自分の人生で同じようなことを考えると面白いなと思いました。通っていた高校ではないところを選んでいたらとか、この桜美林大学を選ばなかったときの別の人生を見ると、今出ている友達には出会っていないので、とても考え深かったです。別の選択をした人生も興味があり見てみたい気持ちはありますが、今の生活が変わると考えると少し怖いと感じるので、今のままでいいなと思いました。これまでの自分の人生において運命、偶然、選択の三つがあり、自分が今の時代生きていることを考えると、自分が生きていることはとてもすごいことなのかなと考えました。たまに、「あの時〇〇しなければよかった」と考えることがありますが、それもまた自分なんだと考えることが出来ました。東日本大震災の時にインタビューをするという行動を移した人はいましたが、その人はその行動を移したことで、人生に何か影響のある変化があったのかなと思いました。

自分の人生で運命、偶然によって変わったことがぱっと思いつかないので、この授業を取ったのと同様に選択が多いのかなと感じた。

アイエンガーの動画を視聴して、自分の意志で選択することにもっと自信を持っていいのだと感じました。運命なのか、偶然なのか、と考えることも面白いと思いましたが、それよりも、自分で選択したことなのだと考えることで、どんな結果になろうと、その選択に自信を持てるような気がしました。

人は周りとは違う判断をすることが難しいとおっしゃっていましたが、その通りだと思います。周りと一緒にいたら、安心することが出来ます、だからこそ、昔の人は周りの人と違う考え、判断、行動をして新しいものの発見をしていったので、よりすごいことだと考えました。今の時代でも、人と違う事をして、何かをやり遂げている人はカッコいいと思います。

今日の授業を受けて少し自分の人生を振り返ってみて、あまり選択はしてこなかったと思いました。運命や偶然にとられるのではなく自分で選択し生きていきたいと思いました。

動物園にいる象は野生で生きている象より寿命が短いことが印象的でした。驚きというか、確かにそうかもなと思ったのです。動物園にいた方が清潔だし安全性もあり、また食事も安定しているにも関わらず、今日の飯を自分で決め、明日の寝床を自分で決めると言った人生だとすれば、生涯を終えた時点で振り返ってみると（死後そんなことができるかは不明ですが）自分に選択の余地がある方が幸福なのかもしれないと思いました。

**アイエンガーは、「やりたいことを選択せよ」とは言っていません。もちろん、やりたいこと、は一つの要素ですが、それだけではないようです。どんな要素があると思いますか？**

自分のやりたいことを選択して行っていくことの大切さを改めて感じました。

**なるほど！考え方を選択していることになっている、という指摘ですね。それを応用すれば、事後に考え方を選択することもありうる、という指摘です。なるほど！**

本日やったこと「選択の考え方、運命、偶然」運命や偶然など自分の力が及ばない物による影響と考えること自体は、耐え難い困難に直面したときには大切な防衛機構となるため否定はしてはいけないが、自らの選択による成功と考えることは自信につながるの、運命と選択を自分の中で使い分けることはより良いメンタルコントロールにつながるのではと思った。

実際は同じことでも、考え方次第で価値が変わることは、例えば意見が言えないことを強調性がある、臆病なことを慎重など、人の短所を長所に言い換えることにも通じると感じた。

私は、運命を自分で選択していると考え。例えば、たくさんテスト勉強したけれど勉強したところはあまり出題されなくて点数が低かったとする。勉強したところが出題されなかったことは運命かもしれない。しかし「勉強した時間無駄がだった」と考えるのか「点数は低かったけど勉強したところは身についた！」と考えるのか、これは運命を自分にとってマイナスに捉えるか、プラスに捉えるかの選択だと思う。私は、辛いことがあっても良い経験だ！と捉えるようにしている。そうするようになってから、失敗することが怖くなくなった。運命は自分の選択次第で変えられるのではないだろうか。

**これもいい視点です！選択は、ときどき、自分だけのことでなく、他の人に影響を与えることがあるので、十分、慎重でなければならないことがありますね！**

現在私は将来について選択ができていない状態にあります。将来を決めることは自分の中では難しい事でどうしても後回しにしがちです。こういうのが「判断できない時」なんだろうなと感じています。同調の話のように、大勢で1つの答えを出すときは誰かに合わせたりすればいいので簡単なのですが、個人の事となると責任というリスクも生まれるためうまく動くことができません。それができたとき、きっと一人の立派な人間として評価されるのだろうなと思いました。

この二つのコメントは良い対比ですね！関連した私のコメントは2つです。

1) 少年兵がいる国を放置しているのも、「私たちの選択」の一部である、ということ。武力闘争は是認できません。しかし、背景があるはずで、自由・権利・金銭などの面で被害を受けている、と思う人たちがいます。表面的な平和は、交易する日本などの国に好都合です。だから、私たちは、弱い立場の人を抑圧するのを助けていることがあります。

2) 制約があるなかで輝く選択もあること。俳句は、むしろ制約の中で輝きます。

選択とは人間が平等に持つ権利であり誰にでもできて毎日が選択の連続であると思う。でも大事な選択をするときほど親や周りの環境、自分の置かれた状況に囚われてしまい自由な選択ができないことが多い。実際しょうがないことだがそれらを気にせず自分の人生として自分だけの意思で選択をして生きていける人はごく一部しかいないと思うしできる人は何らかで成功をする人が多かたりするのかなと思った。

人生は選択の連続で、自分の道は自分で決める。非常に素晴らしい言葉だと思います。この言葉が通用するような社会にいればこの言葉は意味のある言葉ですが、生まれた時から難民として生活小さいながら銃を構えて生きていく今自分が幸せかどうかは置いておいて、とりあえずご飯が食べれている人たちにとって、この言葉は通用するのでしょうか。今日の講義とは少し趣旨がずれてしまうかもしれませんがこのように思えた部分もありました。生活に感謝しようと思います。

#### 4. 臓器提供・判断しないという選択・同調

上の授業のコメントでは、「選択が他の人に影響を与える」という問題点が指摘されていました。政治家を選ぶ選択を、うっかり誤ると、とんでもないことになることは、かつてのドイツを見るとわかります。

臓器移植について日本は「提供する」「心停止したときに限り提供する」「提供しない」のどれかにチェックを入れるようになっていきます。より良い記述です。しかし、政治家が積極的にこうした悪さをする可能性があることは、知っておくべきです。

自分の選択に不安を持ってしまうので、判断をしなくて良いのなら、難しい判断なんてしたくないと思ってしまいます。

最後の人は難しい選択を迫られると判断しないというのが面白いと思った。過去を振り返ると「日本に行くか、チリに残るか」という選択をした時も、すぐには決められず、数ヶ月そのままにしていたことがあった。だが、自分にとって臓器移植の意思表示はそんなに難しいものとは思っていない。脳死状態で完全に死んでいないが、動けないのなら「体がある意味がない」と思って、「提供する」と表示している。その体の部分を自分よりも活用してくれるのなら「ありがたい」とまで思っている。

人間はむずかしい判断を迫られると、判断しないというところがみんながみんなそういうわけではないですがたしかにそうだなと思いました。

確かに何かについて議論するとき、誰かに賛成して乗っかるほうが、自分一人の責任にならないからなあ。

難しいことは判断しないというのは自分に置き換えてもよくある事だなと実感しました。高校の時先生から、世論調査は、「支持するか」と聞いた時と「支持しないか」と聞いた時とで結果が大きく変わると聞いたことがあります。これも、同じようなことかと考えました。

臓器提供のような難しい選択が迫られたら、僕も判断しないなと思いました。そもそも臓器提供について考えたことがある人も少ないのでは。オプトアウトの国ではほぼ全員臓器提供することに勝手になっていて恐ろしい。

## お金の相対性

**お金の話は、身近であり、テレビショッピングなどでよく見ることができます。学ぶことで騙されないようになる、という話です！その通り！しかし、それだけはありません。この授業では、学ぶ前と学ぶ後で必ず変わる、と言いました。いろいろな意味でそうです。そして、皆さんの責任、という観点でもそうです。その意味は…**

通販を見ると安い良さそうと見るたびに思っ買いそうになってしまっていたからこのような原理で気持ちを掴まれていたと知って、「アンカリング効果」という言葉を心に刻もうと思う。

通販のcmでオペレーターを増やして待っていますというようなものは同調、投票率が低いことは判断しないことを選択していることなど、今回の授業はとても身近な例がいくつも思い浮かぶものであり、とても納得できる授業だった。

お金の相対性で出てきた例は、日常生活でよく経験することでしたが、250円節約するという面では同じなのに、価格によって250円という価値が全然違うことを初めて身をもって感じて、とても衝撃で、今までだまされていたというショックが大きかったです。しかし、これから物事を注意深く考えなければならないという気付きに繋がったので、今日で気づくことが出来てよかったなと思いました。

携帯ショップと文房具店の例の話で、私はペンのためなら安い方を選び遠くまで行きますが、携帯の250円の差だとわざわざ遠くまで行かないなと考えました。

通販番組に商品を購入させるように仕向けるロジックがあることは知らなかったので気を付けようと思った。大学の講義を受けていると、こういった社会にある落とし穴に対する知識が増えていっている気がする。だから自分たちが勉強する理由はより良い選択をするための判断材料を増やすためではないかと思った。